

インドネシアの国内移動に国際線を使ってみたら

● 放 眼 日 中



コラムニスト・アジアウォッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

先日6年ぶりにインドネシアに行ってきた。場所は東ジャワ州のスラバヤ（インドネシア第2の都市）と北スマトラ州のメダン（第4の都市）。ジャカルタは、前回訪問時に交通渋滞のすごさに懲りたため今回はパスした。インドネシア政府がジャカルタの首都機能を遠くカリマンタン島に移す計画を発表するほどなので、さらに、状況は深刻になっているのでは、と思ったわけだ。

スラバヤからメダンへの移動には当然飛行機を使うしかないのだが、ネット検索で出てくるフライトに直行便がないのは驚いた。国内の大都市同士が直接つながっていないことに、何となくこの国の国内事情が表れているように思ってしまう。そしてもう一つ驚いたのが、国内移動なのに、なぜかマレーシア航空のクアラランプール（KL）経由のフライトが選択肢として出てくることだった。さらに、インドネシア系LCCでは預ける荷物に追加料金が掛かり、結果的にKL経由の方が安くても時間帯も悪くなく、飛行時間もそれほど変わらない。

せっかくなので希有な体験してみようと、この便に搭乗してみた。最近インドネシア入国時、観光などが目的であれば日本人はビザ免除であり、この手続きや費用が掛からないことも決め手になった。ところが、スラバヤ発のフライトが遅れすぎて、KLでの乗り継ぎができず、メダン行きは翌朝になるというアクシデントに見舞われた。

KLでの宿をどうしようかと考えていたら、マレーシア航空から「空港ホテル1泊+3度の食事」が無料で提供され、メダンのホテル予約が無駄にしたものの、手厚い補償がなされた。そもそもこの国際線の料金が安いのは、マレーシア航空が競争上値下げしているからだと思われるが、このような補償をされているのは、経営はますます厳しくなるのでは、と余計な心配をしてしまった。

翌朝のメダン行きに乗り込むと、同じ目に遭っていたメダン在住華人が、前日家に戻れなかった怒りもあってか「わが国のやり方はどう考えてもおかしい。われわれインドネシア人が国内移動するのに他国の交通手段を使っているのを、黙って見ているなんてあり得ない」と至極もつともな意見を吐露していた。あくまでもビジネス上の問題であり、政府機関などが介入する必要はないかもしれないが、マレーシア政府が航空会社をバックアップしているのであれば、考える余地のある意見ではある。

実は、マレーシア側にもさまざまな問題があるようだ。今回フライトが遅延した理由の一つが、その1週間以上前に起こったKL空港の全面シSTEMダウンだった可能性がある。この事故の理由は明らかではないが、地元では何やら不穏な動きがあるとの話も出ていた。そして数日間、あの過密な空港が、出発や到着時間を全て手書きで表示するなど、大規模な海軍戦術で危機を乗り切ったという。その余波が出てしまったのかもわからない。実際、空港ホテルでも「きょうもいまだ、ワイファイは不安定です」と表示が出ていたほどだ。

今回は不思議なフライトに乗り、不思議な光景を幾つか目にしたため、遅延による怒りなどは湧いてこず、むしろ国際情勢はどこでどうつながっているのかという興味が湧いてしまった。